

子育て環境日本一を目指すために

いま子育てに関わっている皆さんに聞いてみました。

私の提言

親子で気軽に立ち寄り集える場所を

■保育指針に保護者支援も加わりました

核家族化が進み、地域交流が薄れる中で、初めての子育てに不安を抱く親が増えていきます。そんな時代背景を踏まえ、養育力の向上を目指して、より強く支援していく必要性を感じています。なにより子どもを一番に考える環境作り、集団の中でも一人ひとりを大切に見守り、お母さんたちがゆとりを持って子育て出来るよう寄り添うことも私たちの仕事だと思っています。

■子どもを遊ばせながら親同志のコミニケーションが図れる場所を

親子で参加する場所として子育てサロンや子育て支援センター、そのほかありますが、参加者は多くないようです。広報などで周知しても内容が見えないのか、企画に魅力を感じないのか、その辺のニーズを知る必要があるのかもしれない。

以前は「城の湯ふれあい館」が遊び場として無料提供され、親子で気兼ねなく集まっていたのですが、それが有料となり代わりに児童館が提供されたそうです。でも小さな子ども



たちは、児童の邪魔になったり危なかったりで、せつかく立ち上げたい会も消滅してしまっただとか。公民館などで無料開放があり、自由に集える場があってもよいのではないのでしょうか。

また人形劇サークルを利用したり、保育士や高齢者が手品、オカリナ、昔遊びを提供したり、子連れで楽しめるコンサートなど、子どもと一緒に歌ったり拍手をしたり体を動かしたり、楽しめる催しを提供する機会が増えるといいのかもしれない。

■もっと周知活動を

矢板市でも「赤ちゃんの駅」が設置されていますが、知らない人も多く、入りづらい場所の所もあり、せつかくお金をかけて設置されても有効活用されていないように思います。ファミリーサポートセンターもサポートする方は多数いるようですが、実際にはあまり利用されていないようです。いざわが子を預けるところとなった時、面接だけでは不安になるので、お互いが少しでも顔なじみになるよう、乳幼児健診時にお世話をしながら地域のサポートセンターとして周知活動したり、小学校の入学式などで紹介するなど、PR紙を配布するだけでなく、預かる側と利用する側が顔を合わせれば、少しでも不安解消につながり利用も増えると思います。

(保育士)

岡目八目



矢板中央高等学校校長 五味田謙一さん (64歳)

4年前、県立宇都宮高校校長を退職後、現職。さくら市籍の森で生まれ、現在も氏家に在住。趣味は囲碁(5段の腕前)、今でも最低月1回は囲碁教室に通っている。

■中央高校はサッカーで有名ですが

現在部員が百二十人。人工芝のサッカー場がある高校

は全国でも少なく、北海道から沖縄まで全国から来ています。

サッカー部以外にも県内ベスト4入りのクラブは、野球、バスケットボール、剣道、ソフトボール、ソフフトニスがあり、文化面でも校内新間は七年連続して県内最優秀を受賞しています。それが生徒たちの自信につながり、言動が変わり、良くなりました。

また、毎日、国旗と校旗の掲揚と降納を生徒たちが自主的に行い、学校での時間の区切りを明確にしています。

■矢板について感想は?

人口約三万五千人の矢板市に高校が三校あるのは珍しい。二千人近い生徒が集まる街です。宇都宮から十分、黒磯から二十分の交通の便が良いところ、そして自然が美しいところという印象です。

①高校生は矢板の財産

高校生が約二千人もいるのを活用しない手は無いです。駅に近いところに、若い人向けのしゃれた店や人が集まれる場所を作ること検討すればと思います。氏家駅前にイベント広場があり、最近夕方、パークやバンドで人が集まるようになってきました。何かきっかけをつくらなければ、若い人たちはそれなりに参加すると思います。

②自然を利用したイベントを

最近、「中央高校のグラウンドを集合場所にした全国的なオリエンテーリングを開催したい」とのオフアールの理由を聞くと、「自然の良さと、東京から近く、交通の便も良く、日帰りできる」とのこと。

矢板市への訪問客が少ないので、ネットなどを活用して、首都圏から人を呼ぶイベントを企画すれば結構集まると思います。(T・M)

編集後記

毎号ネタ探しに苦勞しながら、なんとか四十号を発行できました。かわら版では、市民の皆さまからの情報を募集しています。自分たちの地域ではこんな事やっていますよ、こんな素晴らしい人がいるよ。こんな良い景色があるよなど。ふりっけてお寄せください。記者も募集しています。